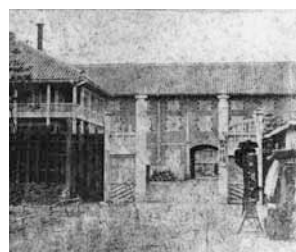


大蔵次官の地位にまで上る

明治四年（一八七二）七月、大蔵省と民部省が分離。八月、栄一は大蔵大丞に進みます。大蔵省の組織や事務分担の改正、被差別民の称を廃し平民籍に編入、日本で初めて株式会社制度の説明を試みた『立憲略則』の起草・刊行に当たるなど、目覚ましい活躍ぶりを見せます。こうした中、栄一は、財政問題をめぐり、大久保利通と対立辞意を漏らしますが、井上馨に慰留されます。十一月、父市郎右衛門が享年六十三歳で逝去、栄一を大きな悲しみが襲います。

明治五年（一八七二）一月、いこの喜作が赦免されます。鳥羽・伏見の戦いにはじまり、飯能戦争、五稜郭の攻防と、官軍に徹底抗戦した喜作でしたが、降伏後の獄中生活は一年半にも及びました。その後喜作は、栄一の勧めにより、大蔵省勸業寮に出仕。ヨーロッパ留学を命ぜられ、蚕業調査のためイタリア・スイス・フランスなどを巡歴することになります。同年二月、栄一は大蔵少輔に進み、事実上の大蔵次官の地位にまで上ります。太陽暦の採用、杉浦譲との共善になる『航西日記』の刊行、国立銀行条例の公布など、重要な仕事を次々とこなしています。予算編成をめぐって司法・文部両省と鋭く対立したり、台湾征



▲創業当時の富岡製糸場（渋沢史料館提供）
木骨煉瓦造の産業遺産として、世界的にも貴重なものとされている



【第19回】

討に反対の意見を述べるなど、硬骨漢ぶりも見せています。

明治六年（一八七三）一月、栄一は、部下の陸奥宗光や小野組の方の責任者古河市兵衛などを従えて、完成した富岡製糸場を視察します。建設決定から開業まで、足かけ三年にわたり、栄一は、建設委員としてこれに深くかかわってきました。初代場長に任ぜられた尾高惇忠、惇忠の長女で工女第一号の勇、惇忠の幼なじみで煉瓦の焼成をはじめ資材や人員の調達に奔走した葦塚直次郎、これら郷里ゆかりの人々と喜びを共にしました。

物語の手引き

『集まらない工女』

富岡製糸場のフランス人技師が赤ワインを手にしている様子を見た日本人は、『若い娘の生き血をすすっている』と誤解しました。そうしたうわさのため、工女が集まりませんでした。13歳の勇は、父惇忠の苦心する姿に接し、その心中を察して入場を快諾しました。

『陸奥宗光』(1844 - 1897)

旧紀伊藩士。坂本龍馬の海援隊に参加。明治政府に出仕し、農商務・外務大臣を歴任。日清戦争前後の外交を指導し、条約改正交渉に成功。頭脳明晰・沈着・冷静な人柄で、『カミソリ陸奥』の異名で呼ばれました。

『富岡製糸場・尾高惇忠・葦塚直次郎』

特集2～5ページをご覧ください。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

キラリ 熱・中・時・間

～富岡製糸場世界遺産伝道師～



絵馬がつないだ深谷と富岡

富岡製糸場世界遺産伝道師（以下「伝道師」）は、『富岡製糸場と絹産業遺産群』を世界文化遺産に登録するための普及・啓発活動を行うボランティアです。平成16年に群馬県が設置し、現在登録者は約250人。深谷市でも鹿島さん・武政さん・荻野さんの3人が活躍しています。

鹿島さんと武政さんが伝道師となったきっかけは、地元田谷の永明稲荷神社に奉納されている葦塚直次郎の名が書かれた製糸場図大絵馬でした。これを調査するため、富岡市を訪問すると、葦塚直次郎は深谷出身で、製糸場建設のため、煉瓦製造や木骨煉瓦建築に尽力したことを知り、2人はいたく感銘を受けます。また、荻野さんは、仕事の傍ら尾高惇忠を研究するうちに、新聞で伝道師について知ります。3人は富岡製糸場を深く知るほど、深谷と富岡の強いつながりを再認識し、興奮が高まっていたそうです。

平成20年6月には、田島弥平旧宅（絹産業遺産候補地の一つ）がある伊勢崎市島村で、桑園造作業に参加。平成21年10月には、『出張博物館in深谷』に併せ、田谷自治会館で『富岡製糸場図大絵馬展』を開催し、好評を博しました。「製糸場が産業遺産として世界遺産に登録された暁には、お隣の伊勢崎にも多くの来場者が見込まれます。深谷や本庄にも製糸場の関連施設が多数点在しますし、ぜひとも北関東地域が一体となって盛り上げていきたい」

3人の熱い思いが、深谷と富岡の過去と現在をつなぎます。



▲第7回深谷市産業祭（平成24年11月）で、『富岡製糸場と絹産業遺産群』のPR活動の様子

ありがとうの手紙



優秀賞
一般の部
はるきくんへ

榎合 桑原操さん

はるきくん、ママにありがとうを言ってくれてありがとう。「ママ、いつもありがとう」って笑顔で言ってくれるから、ママはとても元気が出ます。たまには小さなメモでお手紙もくれるよね。ママは今までもらったお手紙、大切にしまっているよ。この先、あと何通もらえるかな？楽しみだな。

ありがとうって言葉、すてきだね。これからも、ありがとうって照れずに言える子でいてほしいな。

いつか、今まで書いてくれたお手紙、一緒に読みたいね。

情熱 農力

今年の出来も上々



井上 巧也さん（26歳・後榛沢）

新鮮さと高い品質が自慢の榛沢産ブロッコリー。井上さんは春に9.6トン、秋冬に18トン余りを生産しています。「秋冬ブロッコリーは、甘みが強いのが特徴。畑で作業していると、車で通りかかったかたから、直接購入したいと声を掛けられます」と、目を細めます。産業祭では、生産者仲間と『茎の漬物』を試食として提供。「もっと生産性を高め、全国2位から全国一の生産地を目指します」と意気込んでいました。